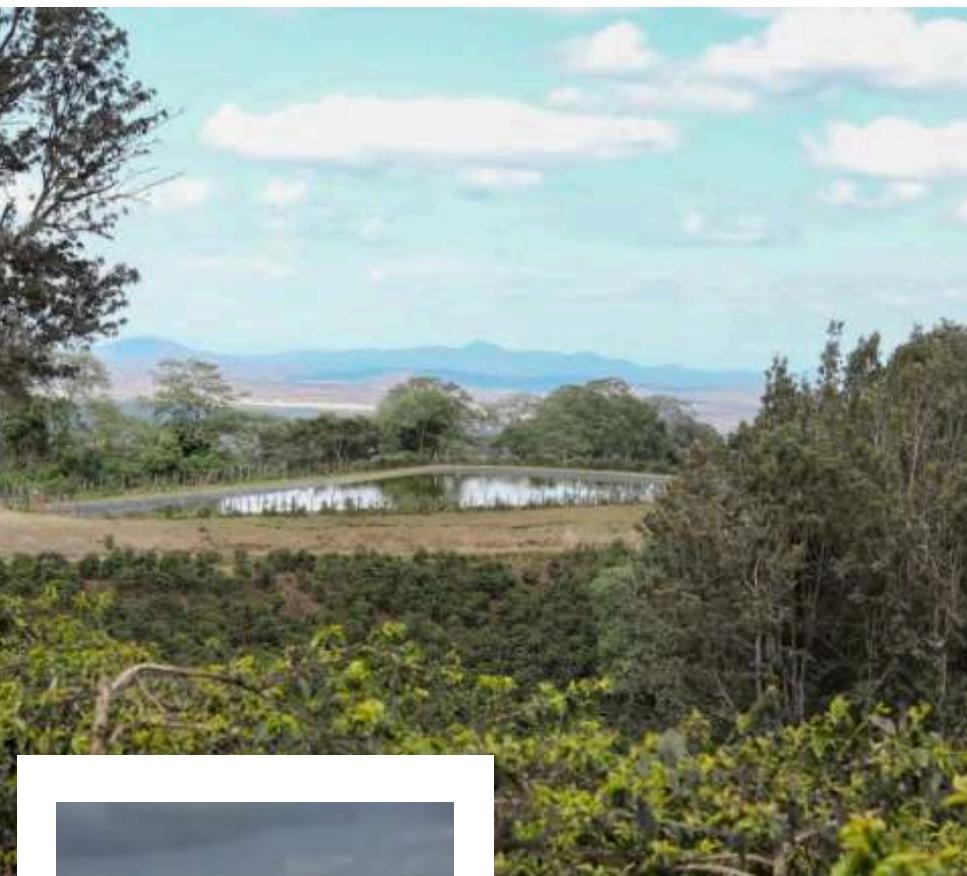


タンジャ農園 視察レポート

TANZANIA

2年ぶりにタンザニアの産地視察にお客様と行ってきました！
今回はキリマンジャロの西方に位置するンゴロンゴロクレーターの視察を特に楽しみにしていました。小農家が大半を占めるタンザニアでは珍しく、この地域はドイツ系入植者が開拓を始めた農園が統合を繰り返し、中・大規模農園が多くあります。
日本人スタッフが常駐するタンジャ農園を視察しました。(横山)



【農園情報】 タンジャ農園 アルーシャ州ンゴロンゴロ

- バーグフリーデン農園
面積：113ha
標高：1580m-1840m

- シャー農園
面積：885ha
標高：1400-1700m

- ティンガティンガ農園
面積：765ha
標高：1370-1400m



キリマンジャロ空港からサバンナ気候が続く景色を見ながら、本当にコーヒー栽培国なのだろうか？…と疑いながら数百キロ車で走り、遠くにンゴロンゴロ地域の高い山々が見えてきて、緑の深いジャングルにあるタンジャ農園に着いた時はコーヒー栽培の楽園かと思いました。

農園内ではすべて日本語で説明をしていただけたので、情報量が多い視察になり大満足でした。住み込みながら試練に立ち向かう3人からこの地にかける熱い想いが伝わり、セラード珈琲のムンドノーボ農園開拓時の苦労はこんなだったのかな？と、とても感動しました。

農園は100年以上の歴史がありますが、近年はスマート農業の導入を積極的に取り組んでおり、今後も楽しみな農園です。

タンジャ農園 視察レポート

TANZANIA



【1】サイはレアキャラ！
タンジャ農園はコーヒー栽培を視察しつつ、翌朝には車で30分でサファリ見学ができる好立地な点が良かったです。ただ、ジャングルの中なので仕方ないですが、最高級のホテルと言っても、寝室に沢山虫が入ってきます・・・

【2】アフリカンベッド
今はウォッシュドがほとんど。

【3】ブルマン品種やケント種などスペシャルティコーヒーに不可欠な伝統的品種が多く残り、他の産地に比べると良い意味で遅れている分、貴重な品種が残っている点に魅力を感じました。

深刻なゾウ害

農業では様々な獣害が発生します。視察時に、汚いカットバックだなあとと思って私が折れた木を見ていたところ、私の心を読んだのか、『それは象が折った木ですよ』と指摘されました。獣害の中でもゾウ害は世界中のコーヒー農園でも初めて聞きました(笑)。栽培現場で起きている苦労話や、面白い話を伝えることも使命と思っております。そういえば、象が通る巨大な獣道の先に民家があったのですが荒らされないのでしょうか?と今思い返すと心配になります。



【4】期待のカッピング😊
日本に届くのが楽しみです。

【5】今回、一緒に視察をした皆様との一枚！

『セラード珈琲さんのように
ブラジル1本で36年会社が維持発展できたように、我々も
タンザニアで同様の成功を収めたい!』と言っていた
とき、更に精進しなければと思いました。